みんなで学びひろめよう！ **碧川かた研究会報** 第22号

2022年1月 事務局：〒681－0061 岩美町高山824 Tel&Fax 0857 73 1051 yotsui@ncn-t.net

第19回研究会を11月24日（水）に湯梨浜 龍徳寺で行いました。

今年度湯梨浜では二回目の研究会でした。風が冷たい日でしたが、熱心に参加してくださいました。

前回米子での研究会は養父 堀正・かたと企救男の上京、碧川企救男の生い立ちを学びました。今回はブックレットの目次立てに添って、「第5章 北海道小樽（七年間）」を志水豊章さんに発表していただきました。

志水さんはこの企救男とかたの小樽時代には深い関心があり、コロナ流行の直前は小樽旅行を計画しておられましたが、実現できませんでした。

研究会の様子

企救男が小樽新聞に勤めていた時、「小樽日報」にいた石川啄木が社の事務長とけんかして、「樽新の碧川のところに行く」と言って辞職してきたが、企救男には会えず、長男の道夫に会ったのを、後の道夫が話している。

小樽時代の企救男の新聞記者としての記録は多いが、家庭内のことは明確ではない。一つ、企救男と道夫が腸チフスに罹り、隔離入院した。退屈凌ぎに小説を書く。喜劇というか奇想天外なSF小説である。これが一等賞になり、賞金二十円を旅費に一家は上京することになる。

その頃の、操との手紙のやりとりも悲しい、辛い思いで であろう。「僕の母はどこですか」。我が子が困っているのに、助けてやれない親の切なさ、上京を強く願っていたようだ。

参考資料は明治三七年三月四日から六日の小樽新聞、企救男の記事「文明史上より見たる日露戦争」と喜劇小説「厭妻（えんさい）治療法」を用いた。

× × ×

1月16日（日）米子市文化ホール「地獄門上映 かたパネル展 紙芝居」のイベントに内田・四井が参加してきました。

第一部は「地獄門」の上映、かたの長男道夫が技術監督をしたものです。第二部は、紙芝居「赤とんぼの母」を朗読しました。大写しの紙芝居も迫力あり、後で、「感動した」「知らなかった」との反応を聞くことができました。

コロナ禍の心配がある中、95名の来場者があり、パネルを熱心に見て回られるなど、かたの知名度を広げました。

⇨ 紙芝居の朗読

ロビーでのパネル展を見入る人 ⇦

（2枚とも、ネット「とっとりいきいきシニアバンク活動紹介」の画面より）

たつの　かたの会との交流会　2021.11.16

たつの霞城館でのイベントはコロナ禍により参加できませんでしたが、収まっていた11月に「かたの会」の招きにより、内田・中島・四井で参加し、プロジェクターを使用して、こちらの研究会の経過や、女性参政権運動について、たつのの方と学びました。意見交換、交流は有意義でした。

碧川かた研究会に参加して

湯梨浜町　　石田員久子

11月24日、今回も中興寺の龍徳寺で、開催という案内をいただいたので、出かけました。

参加者は6人という小人数でした。

内容はブックレット作成に向けて、「第5章小樽（七年間）」、志水豊章氏の原稿と「厭妻治療法」の資料をもとに説明がありました。

東京専門学校英語政治科を卒業後、企救男は北海道へ渡り、新聞記者として出発。この頃、かたと結婚（明治三五年）。彼は「キリスト教社会主義者」の一人として位置づけられていて、政治的立場は非戦であったようだ。小樽新聞では、反戦記事を発表していた。この頃、石川啄木との交流が生まれたなどのエピソードを、興味深く拝聴しました。

企救男と長男道夫が腸チフスに罹り、隔離入院するというハプニングが起こり、この時病院のベッドの上で書いた喜劇小説が『讀賣新聞』で一等に入選、題は「厭妻治療法」。その後上京など、私の知らない北海道時代のことを学習することができて、参加して良かったです。

今後、碧川かた のことをもっと知って、一人でも多くの人に彼女のことを伝えていきたいと思います。

龍徳寺の庭園をバックに立つ石田さん

河越太郎氏の先祖について

昭和50年『よみがえれ 赤とんぼの母』著者の河越太郎氏の父は河越礼人（文久弐年拾弐月拾八日生れ、昭和四年鳥取市で死亡）で、その父は河越 轟（天保元年拾壱月生れ、明治弐拾九年四月大山町で死亡）で、その父は鳥取藩士の河越治郎兵衛（八代）であることが、明治18年～明治43年に轟・礼人が住んだ大山町（藩政時代の知行地）にある除籍簿からわかった。

河越治郎兵衛は江戸時代には岩越と名乗り、代々鳥取藩士で、四百三拾石、槍術指南をしていた。その長男は（初名三保之丞）述人であり、弟が轟。当時二十士事件で殺された側用人黒部権之介は伯父（不詳）にあたり、岩越家から述人と同人忰清之進（後に護と改名）が手結之浦に追って行ったのがわかった。この後、岩越を河越に改姓したのである。

四井　幸子

●次回の研究会は鳥取です。

［日時］ **令和4年3月13日（日）**

午後1時半～3時半

［場所］ 鳥取県立図書館 大研修室

［内容］ ・初めの20分は「碧川かたの生涯と研究会の経過」を四井が説明。

・中ほどの「婦人参政権運動」について、かたの活動を新聞・文献から隈なく調べた内田克彦さんが、わかりやすく説明します。

どなたでも参加できますので

マスク着用で、気軽においでください。